

平成30年度林業事業者等調査

1 調査結果の概要

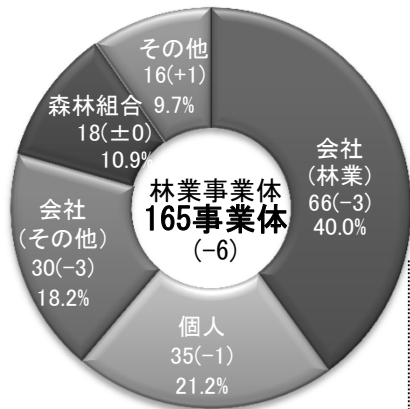
(※括弧内の数字は対前年度比)

- 本県の林業事業者数及び林業就業者数は、事業者数が**165事業者 (-6事業者)**、就業者数が**1,499人 (-95人)**と平成27年度からの減少傾向が続いている。
- 新規就業者数は**87人 (-13人)**と、林業就業者数に占める新規就業者の割合は一定割合(約6%)を維持しているが、就業者数全体が減少する中で減少傾向が続いている。
- 就業者のうち、木材を伐出する素材生産作業の従事者は、**975人(+13人)**とほぼ横ばいであり、その約8割を「会社(林業)」と「森林組合」が占めている。一方、植栽・下刈・除伐・保育間伐等の保育作業の従事者は、**524人(-108人)**で減少傾向が続いている。
- 就業者の平均年齢は、**47.1才(+0.4才)**と微増したが、長期的には若返り傾向にある。雇用状況を見ると、年間平均就労日数は**192日(+5日)**と長期化が進み、月給制の割合は増加傾向にあるが、依然として、日給・出来高給制が大勢を占めている。

2 図で見る林業労働の現況

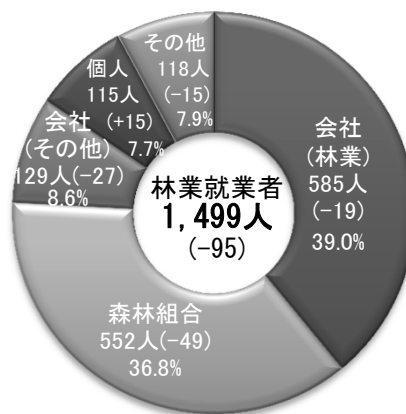
(1) 林業事業者数及び林業就業者数 [図1・図2]

- H30年度末の本県の林業事業者数は165体で、H29年度末の171体から6体減少した。一方、林業就業者数は1,499人で、H29年度末の1,594人から95人減少した。
- 就業者数の内訳は、個人事業主で微増はしているものの、それ以外は減少した。



【図1 林業事業者の内訳】

・事業協同組合	7
・NPO法人	4
・任意団体	1
・財産区	2
・市町村	2

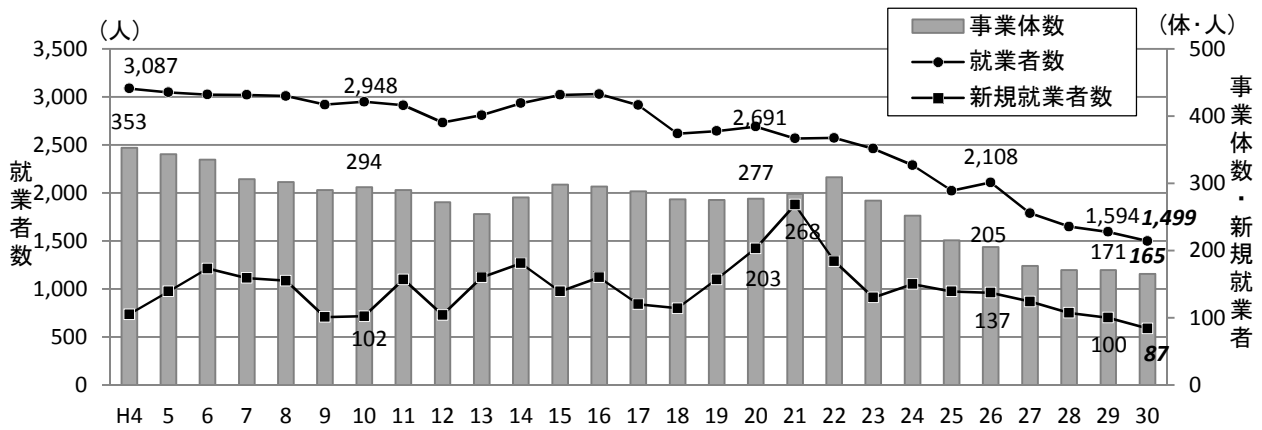


【図2 林業就業者の内訳】

・事業協同組合	70
・NPO法人	27
・任意団体	10
・財産区	7
・市町村	4

(2) 林業事業者数、林業就業者数及び新規就業者数の推移 [図3]

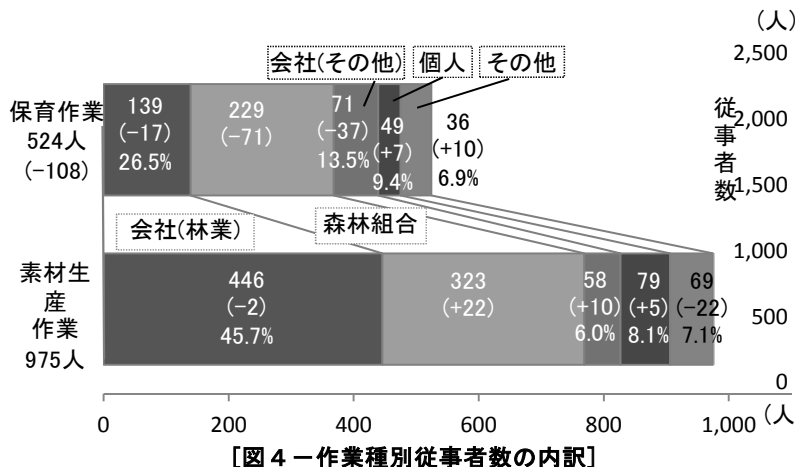
- 事業者数は、H4年度の本調査開始以降減少傾向が続き、H13年度を底として増加傾向に転じたものの、H22年度から減少傾向が続いている。
- 林業就業者数は、H16年度までは約3,000人で横ばいに推移していたが、そこから減少傾向に転じ、H26年度には4年ぶりに増加したものの、H27年度からは減少傾向が続いている。
- 新規就業者数は、H21年度前後にリーマンショックの影響で林業が雇用の受皿となったことで大きく増加したが、その後は150人前後で横ばいに推移した後に、就業者数と同様に減少傾向が続いている。



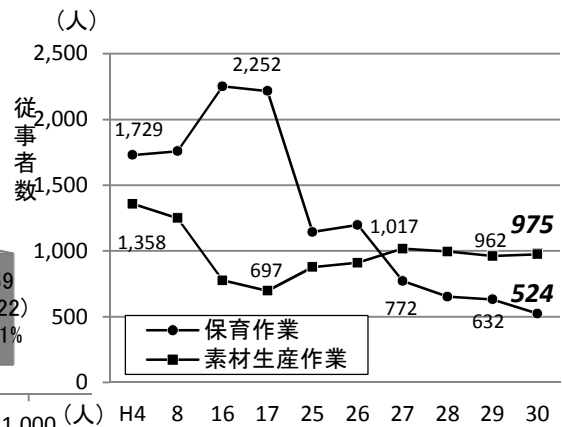
【図3－林業事業体、林業就業者及び新規就業者数の推移】

(3) 保育作業及び素材生産作業の従事者数の推移 [図4・図5]

- 主に素材生産作業に従事する者はH17年度を底として増加傾向にあり、本県の素材生産活動の着実な実施に貢献している。
- 一方で、主に保育作業に従事する者は、保育事業量の減少等に伴いH16年度をピークに減少傾向にあり、H27年度からは素材生産作業従事者の人数を下回っている。
- 保育作業従事者が減少する一方で、素材生産従事者は増加しており、保育作業から素材生産作業へのシフトが進んでいる。



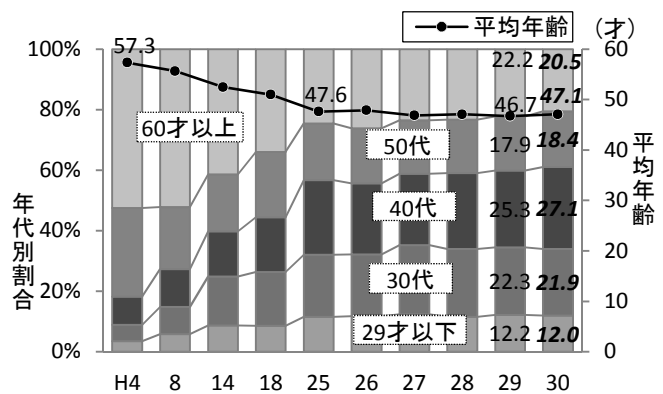
【図4－作業種別従事者数の内訳】



【図5－作業種別従事者数の推移】

(4) 林業就業者の年齢構成の推移 [図6]

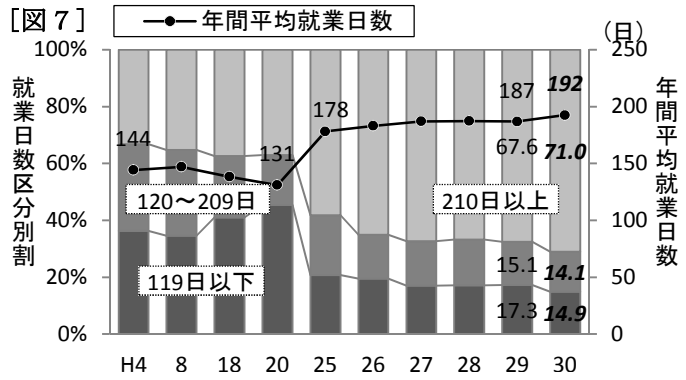
- 就業者の平均年齢は、47.1歳と前年度に比べ+0.4歳と微増しているが、長期的には若返り傾向にある。
- 就業者の年代別にみると、近年、30代から60歳以上までの各年代がそれぞれ約2割前後で推移している。40代の就業者が最も多く全体の約4分の1を占め、最も少ないのは29才以下の若年者となっている。



【図6－就業者の年代別割合及び平均年齢の推移】

(5) 林業就業者の年間平均就業日数の推移 [図7]

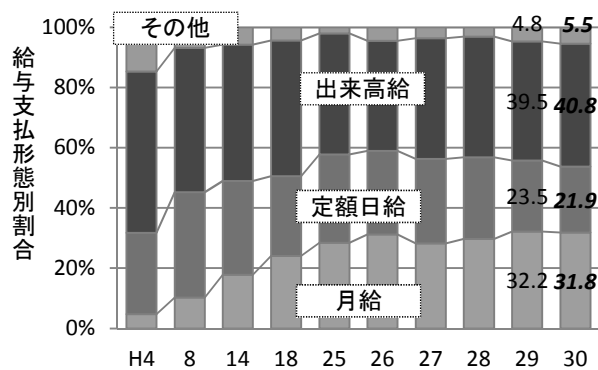
- 就業者の年間平均就業日数は、H20年度の131日を底に長期化が進み、H30年度は前年度から5日増加の192日となった。
- 就業日数の区別にみると、通年雇用の目安となる年間210日以上就業する就業者の割合は、H4年度には約3割であったが、近年は約7割まで増加し、通年雇用の割合が増加傾向にある。



[図7-就業者の年間就業日数割合及び平均就業日数の推移]

(6) 林業就業者の給与支払形態の推移 [図8]

- 月給制の就業者は、H4年度には1割に満たなかったが、その後増加傾向にあり、H27に微減したものの近年は約3割で推移している。
- 定額日給制の就業者と出来高給の就業者の割合は横ばいの約7割を占め、依然として大勢を占めている。
- 給与支払形態の傾向は、林業の事業日数が天候に大きく影響を受けることが主な要因と考えられる。

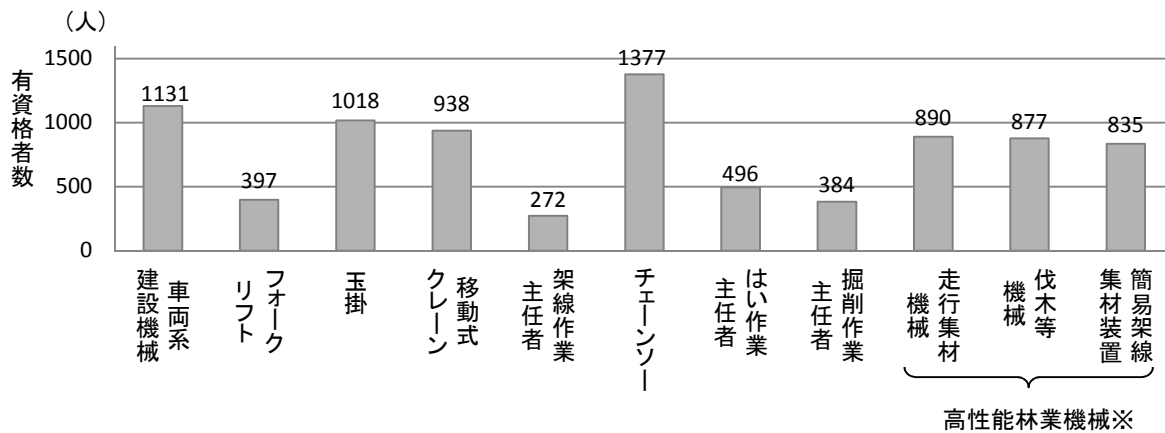


[図8-就業者の給与支払形態割合の推移]

※図8の「出来高給」の区分には月給及び日給との併用を含む

(7) 林業就業者の免許・講習等の取得・受講状況 [図9]

- チェーンソーは林業就業者のほとんどの者が取得している。また、素材生産作業従事者の約9割以上が高性能林業機械の作業従事に必要な免許、技能講習、特別教育等を取得・受講している。



[図9-就業者の有資格者数]

※・走行集材機械…フォワーダ等
 ・伐木等機械…ハーベスタ・プロセッサ等
 ・簡易架線集材装置…スイングヤード・タワーヤード等

